

編 集 後 記

明けましておめでとうございます。不況にはじまり、不況に終わった1975年から、彼方に曙光の見えるかに思える1976年がはじまりました。

本誌も創刊以来4年目を迎えることになりました。小学生でも4年生ともなれば、低学年としては扱われなくなります。編集委員一同、編集室も一層の努力を傾けたいと考えておりますが、諸先生方にもより一層のご指導とご鞭撻の程をお願いいたします。

さて、本年最初の号として、「脳性麻痺の治療とその限界」を特集テーマといたしました。脳性麻痺の早期治療の有効なことはすでに大方のコンセンサスを得ているように思われるが、その実際となるとまだ多くの問題を解決して行かねばならない。この点から、実際上の問題として、穂山、高松両氏の論文は多くの示唆を与えてくれよう。しかし、脳性麻痺は早期療育ですべてが解決してしまうわけではない。寺澤、江口両氏の論文はその現

実に如何に対処して行くべきかを示してくれている。さらに、小池氏司会による座談会、浜田、原田、西川氏の短文を含めて、脳性麻痺への正しい理解に役立つことを願うものである。

また、本号から新しい企画として、リハビリ医学模擬テストを連載することになった。研修や勉学の一助になれば幸いである。一方、講座はリハビリテーション診断学がはじまり、一頁講座は職業リハビリテーションをとりあげた。いずれも、リハビリテーションを志す者にとって基本的に欠かすことのできない問題であろう。

最後に、「ひと」に河邨氏を、ビスカルディ氏との対談を荻島氏にお願いしたことを付記しておく。このような企画も編集室の範囲内だけでは限界があるように思われる。読者諸兄からの積極的なご提案をお願いしたい。

(大川 嗣雄)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 罔 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、田村、鹿島)

次 号 予 告 (第4巻第2号)

特 集 障害者福祉を考える

社会保障としての障害者福祉

—その基礎的理解のために—……………立命館大 坂 寄 俊 雄

欧米の障害者福祉の動向

—不況下の影響の下に—……………日本女子大 小 島 蓉 子

地域における障害者福祉行政とその問題点……………目黒区福祉事務所 津 田 光 輝

対談／障害者福祉を考える……………大阪経済大 鈴 木 正 里・他

資料／障害者福祉をめぐる統計……………東大病院リハ部 二 木 立

障害者の教育と福祉……………石神井ろう学校 吉 本 哲 夫

街づくりの現場から……………町田市役所 森 口 克 弘

障害者と労働……………東京コロニー 調 一 興

東京都心身障害者福祉センターにおける

結婚相談の現状と問題点……………都身障福祉センター 原 井 利 夫